

特集

長野県天文文化研究会の活動

～長野県は宇宙県～

陶山 徹（長野市立博物館）、天文文化研究会メンバー

1. 長野県天文文化研究会とは

1.1 長野県は宇宙県

近年、長野県では、「長野県は宇宙県」をキーワードに「宇宙」を観光・教育資産として活かしていく活動を進めている[1]。

長野県は、平均標高と平均居住標高とも日本で最も高く、文字どおり宇宙に一番近い県と言える。また、美しい星空が多くの場所で見られている。これについては、長野県星空継続観察ワーキンググループを中心に、長野県内の多くの場所で夜空の明るさ調査が行われ、実証されている[2]。また、国立天文台野辺山宇宙電波観測所や東京大学木曾観測所など日本で最も多くの天文研究施設や多くのプラネタリウム・天文台など公開天文施設がある。そして、信州大学ぎんれいプロジェクトなど、長野県内にある大学等と製造業者のもつ高い工業技術は、多くの宇宙プロジェクトを支えている。

1.2 長野県天文文化研究会の目的と概要

長野県は宇宙県といえる理由の一つは、上で述べたように美しい星空にある。これは夜空の明るさ調査で実証することができる。では、歴史的、文化的にはどうなのだろうか。これを明らかにするために立ち上げたのが、長野県天文文化研究会である。

そのため、研究会の活動内容は、現在につながる近現代天文学の調査研究が主になっている。当然、前近代における天文学調査も必要になるので、江戸時代の天文史料の調査も進めているが、現状では、近現代の天文学調査が活動の中心である。



図 1 長野県では、「長野県は宇宙県」をキーワードに「宇宙」を観光・教育資産として活かしていく活動を進めている。

1.3 長野県天文文化研究会の活動

本研究会の特色の一つは、様々なメンバーが参加していることである。

まず、観測所などに勤める研究者が参加している。東京大学木曾観測所や野辺山宇宙電波観測所だけでなく、長野高専に所属する天文学者も参加している。

そして、社会教育施設に所属する職員も参加している。茅野市八ヶ岳総合博物館と長野市立博物館には、近代の天文学に関連する資料が所蔵されている。これらは一次資料から近代天文学を明らかにしようとする際に重要である。

また、各地の天文同好会のメンバーも参加している。様々な背景を持つ人々が会に参加すること、多様な視点から研究をすることができる。そして、市民による天文普及の担い手が、自身の天文普及のルーツを探るのは、これからの宇宙県の活動を方向付けるためにも

重要である。

さらには、太陽観測史や科学史、そして、言語地理学の研究者などにも参加してもらい、分野を横断した調査研究を進めている。

現在の主な活動は月 2 回行っている研究会の実施である。会員が現在の調査研究の進捗状況や興味のあるテーマについて報告している。コロナ禍ということもあり、オンラインで実施している。オンラインということで、広い長野県でも、みんなで議論することが可能になっている。

また、実物資料の整理や調査研究も進めている。マンパワーが足りずになかなか進まないが、地道な活動が今後の研究の進展につながると考え、少しずつ進めている。

2. 諏訪天文同好会 ～日本初の市民による天文同好会～

長野県の近現代の天文学史調査を進めるにあたって、まず、対象としたのが、諏訪天文同好会である。1922 年に発足した日本初の市民による天文同好会である。会は今も存続しており、来年で発足 100 周年を迎える。

2.1 同好会の概要

諏訪天文同好会は、とかげ座新星を発見した五味一明や東京天文台（現国立天文台）台長となった古畑正秋など多くの人材を輩出している。また、1954 年から現在まで 70 年近くに及び、太陽観測を続けている藤森賢一も同好会会員である。天文観測のレベルも高く、変光星観測の成果を天文月報に報告している。また、諏訪天文同好会の会員である青木正博は、自然保護運動において活躍することとなる。青木は、ビーナスライン建設反対運動や日本星空を守る会において中心的な役割を担った。

諏訪天文同好会の活動が重要と考える理由は、二つある。一つ目は現在の宇宙県の活動

につながると考えられるからである。今ある県内各地の同好会や観測所、社会教育施設の発足や変遷に関係している可能性がある。二つ目は東西の天文文化の結節点と考えられるからである。ただ、これらはまだ仮説であり、今後の調査研究が必要である。

3. これから

本稿では、長野県天文文化研究会の活動と現在の主な研究対象である諏訪天文同好会について簡単に紹介した。来年は諏訪天文同好会設立 100 周年を迎える。これを記念して長野県でシンポジウムを開催したいと考えている。興味のある方は是非ご参加いただきたい。

また、現在の活動の中心は、諏訪天文同好会を中心とした近代の天文学史についての調査研究だが、他にも研究対象は数多くあり、会の活動は長期にわたるものだと考えている。近代の天文教育の変遷や江戸時代の天文学史など調べるべき課題は数多くある。もし、興味があれば、是非著者まで連絡をいただきたい。会の活動については、天文文化研究会のホームページ[3]に書いてあるので、参考にさせていただきたい。

文 献

- [1] 長野県は宇宙県ホームページ
(<https://www.nro.nao.ac.jp/~uchuuken/html/index.html#>)
- [2] 長野県星空継続観察ワーキンググループホームページ
(<https://uchuuken.jpn.org/keizoku/>)
- [3] 長野県天文文化研究会
(<https://uchuuken.jpn.org/bunka/>)



陶山 徹